

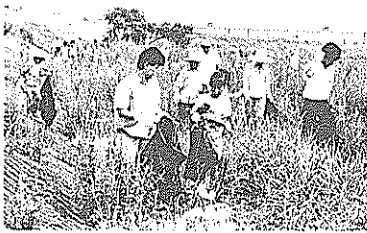
# 550人が河川の一斉清掃

## 舟入川、藻川、物部川

河川一斉清掃の日の七月十五日、舟入川、藻川と物部川で清掃作業が行われました。

舟入川、藻川の清掃は高知市が行った浦戸湾に流入する七河川

川の清掃に呼応して土佐山田町とともに実施した。舟入川、新川浄化推進協議会、舟入川流域連絡協議会と市が主催して、参加者役百五十人が清掃とともに、川を大切に」と書かれたチラシを配ったり、看板を立てたりして、河川の美化を訴えました。物部川の清掃は建設省が主催して、地元住民や少年サッカーチームのメンバーら約四百人が参加して行われました。参



ごみ袋を片手に清掃作業（物部川）

加者はごみ袋を片手に約一時間にわたって、空き缶やビニールなどを回収し、小型トラック三台分のごみが集められました。

# 2300人が海岸の一斉清掃

2トントラックに40台分

美しい浜辺を作ろうと、海岸



河川の美化を訴え看板を設け

愛護月間の七月二十二日、地元住民ら約二千二百人が参加して、久枝から高知市との境までの海岸の一斉清掃が行われました。

これは、建設省、県、市と南国市海岸地域美化推進協議会が主催して毎年行われているもので、今年が八回目。

朝の六時から海岸に集まった参加者が一斉に清掃を始めるとみるみるうちに浜辺はきれいに。二時間足らずで清掃は終了しました。

今年梅雨に豪雨がなく、ごみの量はいつもより少なかったものの、ジープやリヤカーなどの大物を含め、集められたごみの量は二トントラック四十台分に上りました。

清掃の後にはうなぎのつかみ取りが行われ、子供たち約百五十人が楽しみました。

# 希望の火灯し続けて20年

## 周年誌「どろんこ」も発刊 土佐希望の家



関係者を迎えての記念式典

重症心身障害児施設「土佐希望の家」（山崎勲理事長）が、開園二十周年を迎え、六月二十三日、関係者約百三十人が出席して、記念式典が行われました。

希望の家は、昭和四十五年に年越山に開園。六十二年には、通園施設「やまびこ教室」が開園、今年六月には第二土佐希望の家も完成し、定員も五十人から百四十人へと増えるなど、充実。日本自販車振興会の補助費前酷から寄せられる浄財、山崎理事長や関係者の努力で、重症心身障害児やその家族にとって、

文字通り「希望の火」を灯してきました。

式典であいさつにたった山崎理事長は、これまでの経緯を振り返り、職員の努力とたたえて「これからも障害者の生き甲斐について考えていきたい」と抱負を語っていました。

また、二十周年記念誌「どろんこ」が、十周年に続いて発刊され、この日配布されました。これは職員の皆さんが忙しい合間をぬって編集したもので、日ごろの取り組みや、園児の成長などが丹念に綴られており、参加者の胸を打っていました。

